東京工科大学

6 国際交流・社会貢献等の概要

(1) 外国の大学との協定状況

①本学と協定を結んでいる海外大学等　　2026 年 5 月 1 日現在

海外の大学名	協定内容
ミズーリ大学セントルイス校(米) University of Missouri-St. Louis	学術交流
テキサス大学健康科学センター(米) The University of Texas Health Science Center at Tyler	学術交流
カリフォルニア大学ロサンゼルス校(米) University of California, Los Angeles	学術交流
ロイヤルローズ大学(カナダ) Royal Roads University	学術交流
マルケ工科大学(イタリア) Polytechnic University of Marche	学術交流
フェラーラ大学(イタリア) University of Ferrara	学術交流
テラモ大学(イタリア) The University of Teramo	学術交流
ウプサラ大学(スウェーデン) Uppsala University	学術交流
シェブデ大学(スウェーデン) University of Skövde	学術交流
ラハティ応用科学大学(フィンランド) LAB University of Applied Sciences	学術交流
ベオグラード大学(セルビア) University of Belgrade	学術交流
レスター大学(イギリス) University of Leicester	学術交流
ハルツ応用科学大学(ドイツ) Harz University of Applied Sciences	学術交流
ホウエスト応用科学大学(ベルギー) Howest University of Applied Sciences	学術交流
ISART ディジタル(フランス) ISART Digital	学術交流
ﾎﾟｰﾗﾝﾄﾞ・日本情報工科大学(ポーランド) Polish Japanese Academy of Information Technology	学術交流
シレジア大学(ポーランド) University of Silesia in Katowice	学術交流
ジェロナグラ大学(ポーランド) University of Zielona Gora	学術交流
サバンチ大学(トルコ) Sabanci University	学術交流
マンガプロダクションズ(サウジアラビア) Manga Productions	学術交流
南オーストラリア大学(オーストラリア) University of South Australia	学術交流

東京工科大学

海外の大学名	協定内容
カーティン大学(オーストラリア) Curtin University	学術交流
クイーンズランド大学(オーストラリア) The University of Queensland	学術交流
オークランド大学(ニュージーランド) University of Auckland	学術交流
オタゴ大学(ニュージーランド) University of Otago	学術交流
ムンバイ化学技術研究所(インド) Institute of Chemical Technology (ICT), Mumbai	学術交流
ブラウィジャヤ大学(インドネシア) University of Brawijaya	学術交流
スラバヤ工科大学(インドネシア) Institut Teknologi Sepuluh Nopember	学術交流
バンダン工科大学(インドネシア) Bandung Institute of Technology	学術交流
ｾｺﾗ ﾃｨﾝｷﾞｰ ﾃﾆｯｸ ｽﾗﾊﾞﾔ(インドネシア) Sekolah Tinggi Teknik Surabaya	学術交流
インドネシア全国私立大学連盟中部ジャワ支部(インドネシア) (Asosiasi Perguruan Tinggi Swasta Indonesia Wilayah Jawa Tengah)	学術交流
チュラロンコーン大学(タイ) Chulalongkorn University	学術交流
タマサート大学(タイ) Thammasat University	学術交流
キングモンクット工科大学(タイ) King Mongkut's University of Technology Thonburi	学術交流
シラパコーン大学(タイ) Silpakorn University	学術交流
ブラパー大学(タイ) Burapha University	学術交流
デラサール大学(フィリピン) De La Salle University	学術交流
アルバイリサーチ＆イノベーションセンター(フィリピン) Albay Research and Innovation Center	学術交流
カント医科大学(ベトナム) Can Tho Medical College	学術交流
ホーチミン市工業大学(ベトナム) Industrial University of Ho Chi Minh City	学術交流
東部国際大学(ベトナム) Eastern International University	学術交流
FPT大学(ベトナム) FPT University	学術交流
経営科学大学(マレーシア) Management & Science University	学術交流
マラ工科大学(マレーシア) Universiti Teknologi MARA	学術交流

海外の大学名	協定内容
テイラーズ大学(マレーシア) Taylor's University	学術交流
モンゴル科学技術大学(モンゴル) Mongolian University of Science and Technology	学術交流
又松大学(韓国) Woosong University	学術交流
延世大学(韓国) Yonsei University	学術交流
南台科技大学(台湾) Southern Taiwan University of Science and Technology	学術交流
国立成功大学(台湾) National Cheng Kung University	学術交流
朝陽科技大学(台湾) Chaoyang University of Technology	学術交流
国立陽明交通大学(台湾) National Yang Ming Chiao Tung University	学術交流
国立台湾大学応用力学研究所(台湾) Institute of Applied Mechanics, National Taiwan University	学術交流
中国地質大学(中国) China University of Geosciences	学術交流
浙江工業大学(中国) Zhejiang University of Technology	学術交流
北京石油化工学院(中国) Beijing Institute of Petrochemical Technology	学術交流
山東理工大学(中国) Shandong University of Technology	学術交流
浙江大学(中国) Zhejiang University	学術交流
吉林動画学院(中国) Jilin Animation Institute	学術交流
重慶科技学院大学(中国) Chongqing University of Science and Technology	学術交流
三峡大学(中国) China Three Gorges University	学術交流
湖北美術学院(中国) Hubei Institute of Fine Arts	学術交流
香港城市大学(香港) City University of Hong Kong	学術交流

②本学と協力関係にある海外大学等

海外の大学名
カーネギメロン大学(米) Carnegie Mellon University
マサチューセッツ工科大学(米) Massachusetts Institute of Technology

(2) 社会貢献活動

八王子キャンパス

① 八王子市中学校科学教室

八王子市立中学校に在籍する生徒が、理科や科学への興味・関心を高めることを目的とした八王子市中学校科学教室を八王子教育委員会と連携して開催した。

2025 年度は、今回は、中学校 1 年生の生徒 37 人が、八王子市教育センターと本学を会場とし、様々な実験に取り組んだ。また、閉校式の後には、本学の NHK 学生ロボコン挑戦プロジェクト「プロジェクト R」の見学を行い、2025 年度の NHK 学生ロボコンに出場した実際のロボットの操縦体験も行った。

② 夏休み子ども科学教室の開催

8 月上旬の 2 日間、小学生を対象とした「夏休み子ども科学教室 ― 電子顕微鏡でミクロの世界探検」を開催した。抽選で選ばれた約 40 名の小学生が、自分で持参した野菜の葉や昆虫などの試料を、まずは肉眼で観察・スケッチした後、電子顕微鏡による観察を行った。

③ 夏休み宿題やろう会 ＆ くふくふ(ランチの子ども食堂)への協力

8 月下旬の 3 日間、本学第一学生会館にて、夏休み宿題やろう会＆くふくふ（ランチの子ども食堂）（みなみ野座・どーぞの会との共催、八王子市教育委員会の後援）が開催され、本学学生が協力した。ここでは、八王子市みなみ野地域周辺の小中学生を対象に、宿題サポートやランチ提供、体験型イベント等が行われた。

本学鉄道交通研究同好会による鉄道模型を用いた運転体験や本学学生寮の学生スタッフである RA（レジデント・アシスタント）がボランティアとして宿題支援を行い、学習支援や交流を通じて、子どもたちの夏休みの学びと居場所づくりに寄与した。

④ 市役所職員対象の「生成 AI 講演会」への参加

八王子市と本学との AI/DX 連携協定に基づき、コンピュータサイエンス学部の長名 優子准教授を講師として、八王子市役所職員対象の「生成 AI 講演会」を開催した。

講演では、生成 AI の基礎知識から、自治体業務における活用、利用時の注意点と基本的な考え方まで、国内の具体例を交えた解説が行われた。

開催日：2026 年 3 月 13 日
タイトル：自治体業務における生成 AI の活用とその基本原則
参加者数：八王子市役所職員　114 名

⑤ TAMA★ろくと巡礼物語！スタンプラリー＆謎解き 2025

コンピュータサイエンス学部の細野繁教授の研究室の学生が中心となって、2025 年 10 月に開催された「TAMA★ろくと巡礼物語」に参画し、イベントキャラクターの CG 制作に取り組んだ。また、CG 化されたキャラクターを閲覧、撮影、SNS への掲載ができるシステムがイベントで活用された。

⑥ 花酵母を利用した地域企業との連携事業

応用生物学部の松井徹教授が作製した、さくらの花酵母を利用した、日本酒、ワイン、ビールの醸造を地域企業と連携して行った。連携企業は以下のとおりである。

八王子酒造（醸造試験・日本酒醸造）、株式会社 HORIG（醸造試験・ワイン醸造）、

株式会社ヴィンヤード多摩（醸造試験・ワイン醸造）、株式会社シェアードブルワリー（醸造試験・ビール醸造）、菓子工房ヴェールの丘（パン製造）、株式会社羽田麦酒（醸造試験・ビール醸造）

蒲田キャンパス

① 東京国際空港航空事故消火救難総合訓練×医療保健学部

2025 年 10 月 23 日、東京国際（羽田）空港で実施された航空機事故消火救難総合訓練に、医療保健学部学生 80 名、日本語学校 15 名、（教員含めて約 105 名）が傷病者役ボランティアとして参加。

② 大田区都市基盤整備部（散歩ネットワーク）×デザイン学部

デザイン学部は、一般社団法人散走ネットワークと連携し、地域の魅力を自転車で巡りながら学ぶ「散走プログラム」を令和 7 年度も通年事業として実施。多摩川や大森・羽田地区では自然・歴史・食文化を学び、ファクトリー散走では大田区の工場を訪問してものづくりの現場を体験,さらに羽田・池上エリアの七福神めぐりを通じて地域文化や住民との交流を深め、学生が地域理解を広げる事業となった。

③ デザイン学部 社会連携実習Ⅰ・Ⅱ

社会連携実習Ⅰ・Ⅱを実施、2025 年度は 2 年生向けの社会連携実習Ⅰとして開講し、2026 年度からは 3 年生向けの社会連携実習Ⅱとして連携し運営する。大田区からの提案課題として、1.障害者への理解促進 2.花壇を通じた地域活性化 3.美しい集積所づくり 4.地域に愛される橋の 4 テーマで実習をおこなった。

④ 大田区地域力応援基金助成事業（大田区蒲田西口商店街 PR 及びビデオ映像作成）×デザイン学部

デザイン学部は蒲田西口商店街振興組合と連携し、大田区「商店街戦略的 PR 事業費補助金」を活用した PR 動画制作プロジェクトを実施。学生が企画・撮影・編集を担当し、若者やファミリー層をターゲットに、商店街の魅力を伝えるショートムービーを制作。商店街の知名度向上や地域活性化、新たな顧客層の獲得を目指した動画を作成した。

⑤ （公益社団法人）土木学会「令和 7 年度かけはし賞」受賞×デザイン学部

土木学会より「令和 7 年度 かけはし賞」を受賞した。本賞は「橋と未来、橋と社会をつなぐ取り組み」に対して授与されるもので、デザイン学部との正課授業「社会連携実習Ⅰ・Ⅱ」との連携が高く評価された。

⑥ （公益社団法人）大田区産業振興協会×大学院デザイン研究科

大学院デザイン研究科は大田区産業振興協会と業務委託契約を締結し、委託金を活用した産学連携事業（デザインクリエイションⅠ・Ⅱ）を授業と組み合わせて実施した。2025 年 12 月 12 日（金）に行われた同協会主催にて大学院生による全大会においてプレゼンテーションをおこなった。

⑦ 佼成学園女子中学高等学校公開授業支援×デザイン学部

2025 年 12 月 17 日、本学と連携する佼成学園女子中学高等学校の生徒約 10 名が蒲田キャンパスのデザイン学部を訪れ、成果を発表した。

(3)産学官連携

① コーオプ教育プログラムの実施

本学工学部では、平成 27 年度（2015 年度）からコーオプ教育プログラムを必修として導入しています。コーオプ教育とは、学内の事前・事後授業と企業での就労経験型学修を組み合わせた教育プログラムです。事前教育では課題解決に用いられるグループワークの手法、就業マナー、報連相等を学び、実習先の企業研究などを行い、2 年次後期(機械工学科)、または 3 年次前期（電気電子工学科、応用化学科）に企業で約 2 か月間の就業体験を行います。この期間は企業から賃金が支払われ、企業の一員として就業を行います。事後教育では就業体験での学びを振り返り企業へその成果を発表するとともに、キャリア教育の推進、主体的な学修の定着を図ります。

また、令和 3 年度（2021 年度）より、応用生物学部、コンピュータサイエンス学部、メディア学部では選択科目として、春期と夏期休暇期間中に約 3 週間のコーオプ教育を実施しています。

平成 28 年（2016 年）9 月から令和 8 年（2026 年）3 月までに、約 3000 名の学生が約 550 社の企業で就業体験を行いました。

② センターの研究活動報告・対外広報

2025 年 4 月 1 日に片柳研究所では、次のセンターおよびプロジェクトを設置し、研究の活性化やブランド価値の向上を図っている。

(1)バイオミメティクスセンターの設置

生物が進化の過程で獲得した高度な機能の原理を解明し、生物を凌駕する機能を AI の駆使により創造し、この技術イノベーションで持続可能社会を実現することを目的として、バイオミメティクスセンターを設置し、センター長に卓越教員の細田奈麻絵教授が就任した。

(2)AI テクノロジーセンターの設置

AI を活用できる次世代の技術者育成、AI 大学を標榜した大学ブランド価値の向上、AI 利活用を通じた地域社会や産業界との連携開拓を図ることを目的として、AI テクノロジーセンターを設置し、センター長にコンピュータサイエンス学部の細野繁教授が就任した。同センターでは、最新鋭の AI プラットフォームを本学に導入し、本学が取り組む各教育研究において先進的な利活用を推進する。

③ バイオミメティクスセンター設立記念講演会を開催

片柳研究所バイオミメティクスセンターの設立とドイツ･キール大学との研究協力協定(MOU)締結を記念し、2026 年 3 月 16 日に記念講演会を開催した。

本講演会では、バイオミメティクス（生物模倣技術）の世界的権威であり、同センターの客員教授でもある Gorb キール大学教授をお招きし、「昆虫の機能に着想を得た次世代型点検ロボットの開発」をはじめとする最新の研究成果を発表した。

④ 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構農研機構（農研機構）との包括連携協定の締結

2026 年 2 月 19 日に農業・食品産業分野における Society5.0 の早期実現を連携・協力して推進するために、包括連携協定を締結した。

今後、本協定のもと、まずは放牧管理の省力化および獣害被害の低減に向けた共同研究 3 課題（「急傾斜放牧地における放牧管理支援システムの開発」、「動物行動制御による獣害低減システムの開発」、「動物モニタリングとデータ分析による放牧地運用支援」）を開始する。

⑤ 東京大学生産技術研究所との学術交流協定の延長

2021 年 12 月に締結した東京大学生産技術研究所（生産研）との「学術交流に関する協定書」について、2027 年 3 月 31 日まで期間を延長する覚書を交わした。この協定は、教員および大学院学生の研究や教育に関する交流を目的としている。

⑥ 第 2 回たま未来連携 EXPO2025 への出展

2025 年 12 月 18 日、19 日の 2 日間、八王子市の東京たま未来メッセで開催された「たま未来連携 EXPO 2025」に、片柳研究所デジタルヘルス・イノベーションセンター（センター長 田仲浩平 医療保健学部教授）が出展した。

同 EXPO は、産官学民連携をテーマとした展示会で、昨年に引き続き第 2 回目の開催となり、多摩地域を中心とした約 40 の学術機関、企業、政府機関等が参加した。

⑦ ハイパープレゼンス社会研究プロジェクトの設置

メディア学部の山崎晶子教授が、科研費の基盤研究 A の資金を原資として、ハイパープレゼンス社会研究プロジェクトを設置した。このプロジェクトは、「人間とロボットと AI の協調と共生のための社会学的ロボット学の創成と国際的展開」という研究テーマをもって活動を行っている。

⑧ 外部資金の獲得状況

各省庁や国立研究開発法人が配分機関となっている競争的資金は、2024 年は 49,004 千円であったが、2025 年度は、77,604 千円となった。

企業との受託研究、共同研究は、2024 年度の 116,958 千円から、136,345 千円となった。また、企業からの奨学寄附金は、2024 年度の 6,743 千円から、5,106 千円となった。

(4) 大学間連携

① 大学コンソーシアム八王子における単位互換制度

大学コンソーシアム八王子に参加する大学間で単位互換協定を締結し、各大学等の特色ある科目を相互に履修することができます。当該科目で修得した単位は、自大学の単位として認定されます。2025 年度は、本学の学生が単位互換生として、拓殖大学と東京造形大学の授業を履修しました。

② 私工大懇話会加盟図書館相互利用

「私工大懇話会」とは東京周辺に所在する理工系大学 13 校の図書館が相互協力を行い、教職員や学生の研究教育活動に資することを目的に、昭和 56 年(1981 年)11 月に組織された、私立工科系大学のネットワークです。

図書館では加盟大学図書館同士の相互協力の一環として資料の閲覧、貸出サービスを行っています。 各館とも貸し出し限度は 2 冊 2 週間となっており、直接返却のほか郵送(料金は利用者負担)も認めています。